

はじめに

近年、国際化・情報化の進展や少子・高齢化の進行など、社会の急速な変化とともに、生徒の興味・関心などが一層多様なものになっています。

これらの変化に対応しつつ、21世紀を担う心豊かでたくましい日本人を育成するために、教育の果たす役割は一層重要なものとなっています。また教育の担い手である教職員に対する期待も一層大きくなっています。

教育公務員特例法の第21条には、「教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない。」とあります。あらゆる職業で職能の発達を目指した研修は行われていますが、教員が常に研修を重ねなければならないとされる理由は、研修をとおして磨かれた人間的魅力や卓越した指導技術、十分に練り上げられた指導計画が、児童・生徒の変容へ寄与する「より良い教育」の提供に大きく関わると考えられるからです。

そのためには、学校の日々の教育活動と密接に結びつく「OJT」研修として校内研修を位置づけ、充実させていくことが重要になっています。児童・生徒の実態を踏まえ、より効果的な学習指導法を検討することや、今日的な教育課題についての共通理解を深めていくといった研修を組織的・継続的に行うことで、学校改善を進めることが可能になります。

このハンドブックが、教職員の意識改革と資質向上に向けた新たな一歩となり、開かれた学校づくりや特色ある学校づくりなど、主体的な学校づくりの充実の一助になれば幸いです。

平成17年5月

神奈川県立総合教育センター

所長 清水進一